

「オリーブの島づくり」を目標として

オリーブは、5,000〜6,000年前から地中海沿岸で栽培されていたといわれている、モクセイ科の常緑樹です。果実を搾ってオリーブオイルにするのが代表的で、実をそのままピクルス（漬け物）にしても食べられているほか、せっけんや化粧品などの原料として数多くの加工品もつくられています。また、近年、健康志向の高まりとともに再び注目を集めています。

このような中、市ではオリーブ栽培を通じた加工、商品開発・販売などを行う新たな6次産業化の推進、オリーブを活用したさまざまな地域振興を旨として、「オリーブの島づくり」に取り組んでいます。

今号では、「オリーブの島づくり」に向けた取り組みの概要などについて紹介します。

「オリーブの島づくり」で目指す6つのこと

1 6次産業化の推進

6次産業化とは、農林漁業などにおける生産（第1次産業）と加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）を連携・融合することで、新しい価値と新たな産業を創出させるという考え方です。

市では、オリーブの栽培、加工・商品開発、販売を一貫して市内で行う新たな6次産業を構築し、雇用の創出や地域振興を旨としています。

3 農業者の副収入の確保

オリーブ栽培は、比較的少ない労力による栽培が可能であることから、農業者の副収入が確保できる作物として期待できます。

4 地域づくり

現在、市内の地区振興会などでは、地域づくり活動の一環として農作物の栽培が行われています。オリーブは、ほかの農作物と比べて手がけやすいことから、地区住民などがふれあい、そして協力しながら取り組むことができる作物としての活用が期待できます。

2 耕作放棄地の解消

市内には、総農地の約3分の1にあたる約2,000ヘクタールの耕作放棄地があります。そこで、耕作放棄地の解消作物、耕作放棄地化させない作物としてオリーブ栽培を普及し、農地の有効利用を図っていくものです。

※耕作放棄地とは：耕地のうち、過去1年以上作付けせず、しかもこの数年の間に再び作付けする考えがない耕地のこと。

5 観光資源

オリーブは平和の象徴としても知られており、国際連合の旗（国連旗）にはオリーブの枝葉がデザインされています。自然豊かな天草に平和のシンボルであるオリーブが栽培されている風景は、絶好の

6 健康づくり

観光資源になると考えられます。また、天草の新鮮な食材とオリーブオイルを使った料理の提供も可能であり、観光客の増加が期待できます。

オリーブオイルには、ほかの植物油に比べてオレイン酸が多く含まれています。オレイン酸には、血液中の悪玉コレステロールを抑える働きがあるといわれ、生活習慣病の予防が期待できます。

オリーブオイルを誰でも気軽に手にしてもらおうことで、市民の健康づくりに寄与することができそうです。